



教師ガイド 難民との共存

導入1：私たち皆が直面している問題

- **アラン・クルディ**：アラン・クルディは、シリア内戦を逃れてヨーロッパから脱出する途中、トルコの海岸で遺体で発見された3歳の子供である。2015年、ヨーロッパに向かったクルディは、地中海で船が難波する事故に遭い、トルコのある海岸で死亡したまま発見された。当時トルコのメディアが公開した写真にはクルディが浜辺でうつ伏せになったまま死亡している姿がそのまま公開され、これは全世界の多くの人々に衝撃を与えた。この1枚の写真は、全世界の人々が難民問題の深刻性を悟る契機となった。(学生たちにクルディの話をも十分に伝え、難民問題に対し感情移入する時間を設ける。)
- **この子供の死は誰のせいといえるだろうか?**：新たな生活求めて出発した3歳の子供が結果的に死亡して発見されたのは、子供個人のせいでも両親のせいでもない。国民の安全保障できないシリア政府、難民受け入れに懐疑的なヨーロッパ国家、難民問題に関心ない全世界の平凡な人々皆が、この子供の死に対する責任があるといえる。

私たち皆が直面している問題

・ 子供の名前はアラン・クルディ、シリア内戦を逃れてヨーロッパに脱出しようとしたが、トルコの海岸で遺体で発見された3歳の子供

・ この子供の死は誰のせいといえるだろうか?



導入2：難民危機


- (学生たちに質問を投げかけ、普段からの難民に対する考えと背景知識を確認する時間である。)
 - 難民について聞いたことはあるか?
 - 難民とはどんな人たちを指す言葉だろうか?
 - 難民問題は私たちとどんな関連があるだろうか?
- + **地球村規模の難民危機**：多くの人々が自分の生活と難民問題は大きな関連がないと思っているが、私たちの誰もがいつか難民になる可能性を抱いている。誰もが戦争、宗教的迫害、気候変化の危機により、いつでも難民になり得るのである。

難民危機

・ 難民について聞いたことはあるか?

・ 難民とはどんな人たちを指す言葉だろうか?


・ 難民問題は私たちとどんな関連があるだろうか?



1. 難民とはどんな人々なのだろうか？

- **難民**：難民は自国で発生した様々な紛争、災害、または迫害などから逃れ、やむを得ず他国に避難したり、安全でない故国を離れることができず国連難民機構に保護を要請した人々すべてを意味する。
- + **国連難民条約第1条(1951)**：この条約では難民を「人種、宗教、国籍もしくは特定の社会的集団の構成員であることまたは政治的意見を理由に迫害を受けるおそれがあるという十分に理由のある恐怖を有するために、国籍国の外にいる者であって、その国籍国の保護を受けることができない者またはそのような恐怖を有するためにその国籍国の保護を受けることを望まない者」
- **cf)移住民**：移住民はより良い職場や生活、教育環境を求めて他の国家への移民を選択し、故国を離れる人々である。

1. 難民とはどんな人々なのだろうか？



・ 難民：戦争、字口、極度の貧困、自然災害または政治的迫害を逃れて他の国に行く人々(国連難民条約第1条)

2. 難民はなぜ国を離れるのだろうか？

- **戦争難民**：人種、種族、理念、領土、地下資源に関する紛争などにより勢力間の武力衝突が生じて難民になる場合。例)シリア難民、ソマリア難民、アフガニスタン難民
- **政治難民**：政治的理念が異なることで政権から弾圧を受け、これを逃れるために難民となる場合。例)イエメン難民、クルド族難民、ベネズエラ難民
- **宗教難民**：宗教の違いのために発生した葛藤、弾圧、虐殺などを逃れるため、住んでいた所を離れて難民となる場合。例)ロヒンギャ難民
- **気候難民**：洪水や干ばつ、火山の噴火、地震、津波など、人間がコントロールできない天災地変により生活の基盤を失い難民となる場合。例)キリバス難民

2. 難民はなぜ国を離れるのだろうか？




・ 戦争難民：シリア難民、ソマリア難民、アフガニスタン難民
 ・ 政治難民：イエメン難民、クルド難民、ベネズエラ難民
 ・ 宗教難民：ロヒンギャ難民
 ・ 気候難民：キリバス難民

3. 難民はいつから?(20世紀以降の難民の歴史)

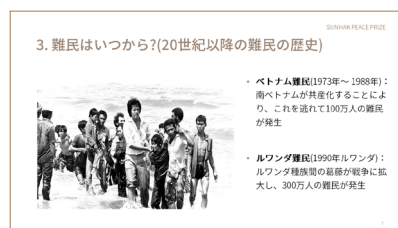
- **ユダヤ人難民(1934年)**：ドイツにナチ政権が樹立されると、これに対し反対する人々とユダヤ人をはじめとするナチ被害者約250万人がナチの迫害を逃れてドイツを離れた。
- **パレスチナ難民(1948年)**：イギリス統治を受けたパレスチナ地域にユダヤ人がイスラエルを建設したことから、2000年間余りこの地域で暮らしてきたパレスチナのアラブ人は突然領土を失った。これにより故郷を離れた70万人以上のパレスチナの人々が隣接国の収容所で難民として生活することとなった。

3. 難民はいつから?(20世紀以降の難民の歴史)



・ **ユダヤ人難民(1934年)**：ドイツ・ナチ政権の迫害から逃れるため250万人の難民が発生
 ・ **パレスチナ難民(1948年)**：パレスチナ地域にユダヤ人がイスラエルを建設し、70万人の難民が発生

- **ベトナム難民(1975年~1988年)**：南ベトナムが共産化されると、100万人余りが自由を求めてボートに乗ったが、彼らを受け入れる国は多くなく、多くの人々が海の上で命を落とした。
 - **ルワンダ難民(1990年)**：ルワンダで起きた種族間の葛藤が戦争へと拡大し、計300万人余りの難民が生じた。彼らは隣接国ウガンダ、コンゴ民主化共和国に避難したが、深刻な食糧不足とコレラなどの伝染病により多数が死亡した。
- + 人類が戦争を始めて以来、多くの難民が発生した。難民の歴史は古代から続いてきたが、20世紀以降は第1次・第2次世界大戦が勃発し、全世界的に数千万人の難民が発生した。当時多くの難民がイギリスやアメリカに避難所を求めて旅立った。第2次世界大戦が終わって国際連合(UN)が組織され、1951年に世界は「難民の地位に関する条約」を採択し、難民を保護すべきであることに同意した。この条約は国境を越えてきた難民を受け入れ、彼らが安全な場所で生活を継続できるよう助けるのは人類として当然のことであると明示している。



4. 難民はどれくらい多くいるのか?(2019年基準)

- **全世界人口の1.5%**：全世界人口の1.5%である1億2千万人が難民生活中である。
 - **10年間で3倍に増加**：2024年、世界の難民は2010年に比べて3倍増加した。
 - **難民最大排出国**：シリア、イエメン、アフガニスタン、南スーダン、ミャンマー、ベネズエラなど
- + **他国に保護を要請した人は1億人**：2010年以降の14年間に、安全への脅威から逃れ自国内、または国境を越えて他国に保護を要請した人の総数は四千三百万人に達する。
- + **深刻な食糧、栄養不足状態**：難民の80%以上は食糧と栄養不足に苦しむ国家または地域に滞留しており、これらの国の相当数は気候災害の危険にも露出している。



5. 子供と青少年の難民

- **全難民の1/2**：難民の半分以上は子供と青少年である。彼らの中には両親とともにやむを得ず故郷を離れた場合もあるが、自分たちにさらされた危険から逃れるため自ら難民となった場合もある。毎年約1万人の子供と青少年が1人で土地を離れている。難民生活中に両親と生き別れて難民孤児となる場合も多い。



- 子供たちを脅かすもの：
 - ① ある国々では子供たちが子供軍人として武器を持ち、強制的に戦場に戦わなければならない。
 - ② ある地域では子供たちが幼い年齢で強制的に結婚を強要されることもある。
 - ③ 両親や仲介人(ブローカー)が子供たちを売り払う場合もある。そうした子供たちは見知らぬ家に行って働かされたり、工場で苛酷な労働を強要される場合もある。
 - ④ アフリカやアジアのある国々では、幼い女児を対象に女性割礼が行われることもある。外陰唇の一部を切り取ることを伝統として行うものだが、これは女児の健康に致命的である。
- 教育を受ける権利(難民教育映像を視聴)：難民児童および青少年の半分以上が学校教育を受けられずにいる。進学と就職に対する展望のない児童や青少年は大人に利用されやすく、自暴自棄な状態で不法行為を犯す可能性がより大きい。よって教育機会の提供は、難民の児童・青少年が新たな出発をするにあたり最も重要な要素といえる。

6. 難民が発生した地域ではどんなことが起きているのか？

- シリア：2011年、40年以上続いた独裁政権に反対して民主化運動が起こり、政府がこれを武力鎮圧すると政府勢力は反乱軍を組織し、政府軍との戦争となった。これは宗教紛争へと拡大したが、政府勢力にはイスラム教シーア派が、反乱軍勢力にはイスラム教スンニ派が加担して内戦が長期化し、数十万人の民間人までが犠牲となる状況に至った。さらには急進派武装団体のISが加担し、シリアはいっそう混乱に陥った。多くの人々がシリアの外へと脱出を敢行するしかなかった理由である。
- アフガニスタン：アフガニスタンは長年戦争を繰り返してきた。1970年代のソ連のアフガニスタン侵攻とアフガニスタン内戦、1990年代のタリバン政権と反タリバンの抵抗、2000年代の9.11テロ以降アメリカのアフガン侵攻へと続く多くの戦争と混乱により、数多くのアフガン難民が発生した。何の誤ちもなく戦争の不安とテロの危険に苦しまなければならなかったアフガンの民間人は、自由を求め命をかけて故郷の地を離れた。2024年基準で世界をさまようアフガン難民の数は640万人とされ、90%はパキスタンとイランに居住、120万人はヨーロッパを放浪している。アフガニスタンは全世界で2番目に難民を多く排出した国である。



- ミャンマー：人口110万人の少数民族であるロヒンギャ族はミャンマー西部のラキン州に居住しており、大部分がイスラム教を信じている。彼らは数世代にわたり長年ミャンマーに居住してきたが、ミャンマー政府はロヒンギャ族全員がバングラデシュから来た不法移民者であると主張して市民権を認めないため、住民の大部分が無国籍状態である。このような差別政策によりロヒンギャの人々の生活環境は非常に劣悪で、ミャンマー国民が当然受けるべき医療、教育の機会からも疎外されている。2012年には仏教信者が大部分であるラキンの住民たちとロヒンギャ族との間で緊張が高まって暴動が起きたこともあった。2016年にはラキン北部でロヒンギャ武装団体が警察の控所を攻撃して犠牲者が出ると、ミャンマー軍がロヒンギャ族全体を対象に暴力的な鎮圧作戦を行った。また2017年8月にはロヒンギャ人種虐殺を敢行し、400人余りが射殺される事態が起きるなどした。このような危険と混乱から逃れようとロヒンギャ族はバングラデシュへと国境を越えるしかなかった。

7. 生活の基盤を離れた後にはどんなことが待っているのか？

- **危険な脱出と移動**：難民の脱出と移動には危険を伴う。国境を通過するための公式的な文書を持たなかった難民は、非公式的な移動通路を利用したり、ブローカーの助けを受けるなど、ほとんどが非常に不法な方法を動員することが多い。そうしたことから鉄条網のついた塀を越えて穴の空いた船に乗り、呼吸をする穴もないコンテナに身を寄せながら避難所を求めて旅立つ。脱出、移動中に起きた事故により命を失う難民の数は絶えず増加している。
- + **難民が向かう所**：現在、難民の大部分が向かうのはヨーロッパだ。難民の大多数はアフリカや中東の難民であり、彼らにとってはヨーロッパが最も近く定着にも適当な所といえる。しかし最近になって、ヨーロッパも難民に向けて開かれていた門を閉め始めている。
- **難民キャンプ**：難民の大部分は、ほぼ何も持たない状態で故郷を離れる。彼らを保護するため、国際救護機関が難民キャンプを提供している。アフリカ、中東の一部の国家で特に多くの難民が発生しているため、彼らが最も移動しやすいと考えられる隣国のヨルダン、パキスタン、エチオピア、ケニアなどの国に多くの難民キャンプが位置している。だが、これらのキャンプ施設は非常に劣悪で、公共医療や教育を期待し難く、ただ雨風を防ぐだけのテント施設と少量配給される食

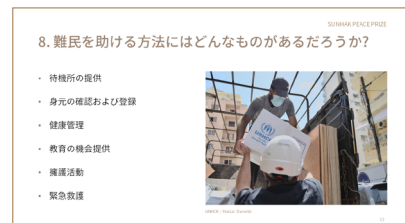


糧があるのみである。

- **亡命申請**：政治的弾圧やその他様々な暴力から逃れて他国に移動した難民が、彼らの保護をを要請することを「亡命」という。新たな国に到着した難民は、亡命申請が受け入れられて初めてその国の政府から公式的な保護を受けることが可能となり、完全な生活を享受することができる。しかし亡命者としての受け入れは概して非常に難しく、最終的に亡命が確定するまで数年がかかることもある。
- **難民の強制送還**：難民条約は「人種、宗教、国籍もしくは特定の社会的集団の構成員であることまたは政治的意見のためにその生命または自由が脅威にさらされる恐れのある領域の国境へ追放しまたは送還してはならない。」と規定している。これは難民条約の中で最も基本的な難民保護の原則であり、国際慣習法上、世界すべての国が守るべき法的拘束性を持つ。だが、様々な国で自国の利益と周辺国との関係から、この条約に反して難民を強制送還している。

8. 難民を助ける方法にはどんなものがあるだろうか？

- **待機所の提供**：難民や内部失郷民のすべては、故郷を強制的に離れざるを得なかった人々であるため、すぐに留まることのできる場所、休息できる所が必要となる。このような緊急保護施設には通常テントを活用するが、時には簡便な保護施設を難民自ら作ることでできる資材を提供する場合もある。
- **身元の確認および登録**：登録は、単なる人員把握だけの目的で行うのではない。登録を通して多様なサービスを受けることができ、家族がバラバラになった場合には、再び皆が結集できるよう助けるためのものである。
- **健康管理**：予防接種、栄養支援、伝染病の管理などを通してできるだけ危機の発生を減らし、これにより難民の精神的健康をも管理する。
- **教育の機会提供**：難民が自ら力を育みより良き未来を築きあげることができるよう基本的教育を支援し、さらには他国で高等教育を受けることのできる機会を与えるなどする。
- **擁護活動**：難民救護団体は、難民の生活に直接影響を与える国家の政治、経済、社会機構と共同で活動し、それらの国の政策、国民認識、法規が国際基準に従っていけるよう活動する。
- **緊急救護**：突然の紛争や自然災害などにより多くの人々が故郷を離れざるを得ない危機的状況に速かに対処し、彼らを保護して破壊された基盤施設を再建する。



- + 難民を助ける方法にはどんなものがあるだろうか?(学生たちに質問を投げかけ、ブレインストーミングを通して自由に対話を交わす。)

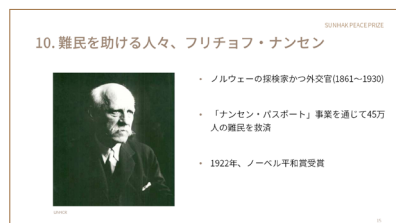
9. 難民を助ける団体

- **国連難民機構(UHCR)**：1949年に国連総会で創設された代表的国際難民救護団体。難民を保護し難民問題解決のために国際的に多様な措置を主導し調整できる権限を持ち、難民の権利と福祉の保護に目標を置き活動している。2019年基準で7,080万人に上る難民と保護対象者を救済しており、このような功勞により1954年、1981年の2度にわたりノーベル平和賞を受賞した。
- **ホワイトヘルメット**：2014年に発足し、シリア内戦現場で活躍しているシリア市民防衛隊である。シリア内戦が激化し、反乱軍が掌握した地域では政府が統制する消防組織が活動できない状況となった。以後孤立した地域に残った消防隊員や市民が残った消防機資材をもって独自に消防組織を作り活動し始め(2013年)たことからホワイトヘルメットの活動が出発した。主に政府軍の空襲、砲撃による火災を鎮圧し、埋没した人々の救助遂行するなどした。最初は統一した団体名のない義勇消防隊として各地で別々に活動を始めたが、主に市民自治組織の管理を受け、その後NGOの様々な広報の努力と国連の支持を通して公式の防衛隊としてスタートした。2016年には第二のノーベル賞と呼ばれるライト・ライブリフッド賞を受賞した。



10. 難民を助ける人々、フリチョフ・ナンセン

- ノルウェーの探検家かつ外交官(1861~1930)
- 第1次世界大戦の後、国際連盟の高等弁務官として国籍のない難民に「ナンセン・パスポート」を発行する事業を始め、以後45万人の難民を救済した。また、戦争捕虜の還送を助け、戦争被害により苦痛を受ける人々を積極的に助けた。ロシア内戦当時に大飢饉により数百万人が飢餓で犠牲となり、生き残った人はその家族を食べるといった惨状が広がると、個人的な財産をすべてはたいて救護所を設立して救護活動をなし、これによりおぞましい悲劇を防ぐことができた。このような功勞により、1922年にノーベル平和賞を受賞した。



11. 難民を助ける人々、サキーナ・ヤクービ

- ・ アフガニスタン難民出身の女性教育家
- ・ アメリカで学び、自国の戦争による難民を助けるべく献身した女性教育家。1995年にアフガン学習研究所(AIL)を設立し、21年間1400万人の難民に教育と職業訓練の機会を提供した。特に女性教育が厳格に禁止されていたタリバン政権下で80余りの秘密学校を運営して3000人余りの少女たちを教育し、イスラム女性の人権と社会的地位の向上に注力した。アフガニスタンの変化に最も必要なのが女性教育であり母親教育であることを強調し、教育を通じて故国の再建に力を尽くした。このような功労が認められ、2017年に第2回鮮鶴平和賞を受賞した。

SUNHAK PEACE PRIZE

11. 難民を助ける人々、サキーナ・ヤクービ



- ・ アフガニスタン難民出身の女性教育家
- ・ アフガン学習研究所を設立し、21年間で1400万人のアフガン難民を教育
- ・ 2017年、鮮鶴平和賞受賞

12. 難民を受け入れるべきか? 拒否するべきか?

- ・ **賛成世論**：難民は人的資源へと成長し得る。フランス国立科学センター所属の研究陣の研究によると、ヨーロッパ各国のマクロ経済に難民が悪影響を及ぼす結果は見られなかった。難民が国家経済に損ではなく得になったということであり、難民の認定を受けて3~5年経過後から難民受け入れ国のGDPを増加させ、税収もむしろ1%ほど増加させたという研究結果である。それだけでなく、世界の民主市民として困難を経てきた彼らが安全な生活を営めるよう助けるのは当然の義務であり、私たち誰もがいつでも難民になり得るという事実を記憶するなら、難民受け入れ問題に対して肯定的な決定を下せるはずである。
- ・ **反対世論**：難民受け入れは経済的、社会的に一国家に大きな負担を与える。難民を保護するため、政府では莫大な費用の予算を注ぎ込まなければならず、これは国民の税金で賄われることになる。さらに難民が大挙流入すれば、景気不況の中の就職競争がより深刻化する恐れがあるという意見も多い。また、難民が起こす犯罪とテロにより、社会的不安要素が増加する。2024年現在、過去5年間でヨーロッパ諸国は難民問題の管理において様々な課題に直面してきました。特に一部の地域では、難民による犯罪、特に性暴力やテロ行為が発生し、社会的な緊張が高まることがありました。これらの問題は、ヨーロッパ内での難民受け入れ政策に対する世論に大きな影響を与えており、一部の国では難民政策の強化や修正を求めるが高まっています。

SUNHAK PEACE PRIZE

12. 難民を受け入れるべきか? 拒否するべきか?



賛成世論：
国家経済に助力、世界平和として当然の義務

反対世論：
国家経済に負担、社会的不安要素が増加

13. 難民に対する私たちの姿勢はどうあるべきだろうか？

- **世界市民として：**難民問題は難民発生国だけの問題ではなく、私たち皆の問題といえる。難民問題は難民発生国だけでなく隣接国、さらには全世界的にその影響を与えて次第に大きな問題へと発展しつつあるためである。よってこれを解決するためには、私たち皆が「世界市民」という認識の下、地域を中心に国家と非政府組織とが力を合わせて連帯して参加しなければならない。世界市民の皆が人間安保の主体でありその対象であるという認識をもち、多様な方案を模索しなければならないだろう。
- **私たちは皆難民であったか潜在的難民：**はるか遠い過去の歴史を振り返ると、私たちの先祖のうちの誰かはかなりの遠方から移動してきた難民であり得る。いつか難民であったが今はしっかりと根を下ろして定着した彼らのように、私たちの一部もそうした過程を通してこれまで続けてきたのかもしれない。また生きていくうちにいつかは逃れられない危険と暴力から逃れようと誰もが難民となる可能性がある。地球上のすべての国が、難民発生国となる可能性、難民保護国となる可能性を同時に持っているのである。このような認識を基に、難民と共存する方法を準備しなければならない。

SUNHAK PEACE PRIZE

13. 難民に対する私たちの姿勢はどうあるべきだろうか？

- 世界市民として：世界市民意識を持ち、多様な連帯を通して難民問題と向き合う
- 私たち皆がいつか難民であったり、今後難民になり得る立場



20